

卒後ワークライフバランスについて考える会（J-PASS）  
2020 - 2021 報告書



2021  
自治医科大学



地域医療推進課では、卒業後の勤務に係る様々なこと（育児支援も含む）の連絡調整業務を行っています。各都道府県での勤務状況などを把握しているからこそアドバイスできることもあるかと思います。みなさんが少しでも笑顔が多い日々を送られますよう、微力ながら協力させていただきますので、遠慮なくご連絡ください。

地域医療推進課卒後指導係

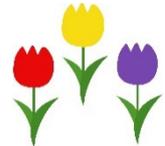
TEL : 0285-58-7055 FAX : 0285-44-6274 E-mail : chisui@jichi.ac.jp

地域医療推進課女性医師支援ホームページ

[http://www.jichi.ac.jp/chisuika/s\\_shien\\_jis.htm](http://www.jichi.ac.jp/chisuika/s_shien_jis.htm)

女性医師支援ブログ

[http://www.jichi.ac.jp/chisuika/jichi\\_womensupport/blogsummary.html](http://www.jichi.ac.jp/chisuika/jichi_womensupport/blogsummary.html)



# 目次

## ● Contents ●

I. はじめに	2
II. 卒後ワークライフバランスについて考える会 in Jichi	3
II-1. 2020年度	
1. 開催概要	4
II-2. 2021年度	
1. 開催概要	5
2. 次第	6
3. 開催内容	8
4. アンケート結果報告	12
III. 卒後ワークライフバランスについて考える会	
J-PASSブロック担当会議	16
III-1. 2020年度	
1. 開催概要	17
2. 次第	18
3. 開催内容	19
III-2. 2021年度	
1. 開催概要	22
2. 次第	23
3. 開催内容	24
IV. 学生懇談会	28
1. 開催概要	29
2. 開催内容	30
V. 頑張っているあなたへのメッセージ	
～先輩たちからのPASS～ 第2版の発行について	31

## I. はじめに



卒後指導委員長  
地域医療学センター 地域医療学部門  
教授 小谷 和彦

卒後指導委員会では、学生および卒業生に占める女性の増加に伴い、結婚・出産・育児の負担が医師としての負担に上乘せられることも多いことから、仕事と家庭の両立が叶うよう勤務の継続に対する支援を平成 20 年度から実施してきました。

「卒後ワークライフバランスについて考える会」は、学生のうちから自身の将来について考える機会となるように、卒業生と在学生の交流の場として設けております。昨年度は、新型コロナウイルス感染拡大により、春に実施予定だった「卒後ワークライフバランスについて考える会」講演会は延期となりました。今年度はオンライン形式となりましたが、延期となっていた講演会を開催することができました。「みんなで考えよう！～地域医療とワークライフバランス～」をテーマとし、講演者の卒業生 2 名から義務年限中や義務年限終了後の過ごし方、地域医療のリアルな現場の様子、また医師として人生を歩んでいく自身のキャリアについてご講演いただきました。会の後半ではチューターの卒業生を交え、活発な意見交換が行われ、学生にとって卒後の働き方や生活をより具体的にイメージできる機会となりました。会を開催するにあたり、医学部同窓会から協賛があり、参加者全員にチョコレートの差し入れをいただきました。この場をお借りして、深く御礼申し上げます。

「卒後ワークライフバランスについて考える会」J-PASS ブロック担当会議は、地域で中心的な役割を担う卒業生をブロック担当として招聘し、意見交換・情報共有の場としております。例年、夏に東京で開催していましたが、昨年度および今年度はオンラインで開催し、今後のより良い支援を検討するために活発な情報交換ができました。

学生懇談会は、「卒後ワークライフバランスについて考える会」講演会より小規模な卒業生と在学生の交流会です。1 年生から 6 年生の多くの学生に参加いただき、近い距離で自分の出身都道府県での勤務をされた卒業生のお話を聞いて、卒後の勤務について理解を深める機会となりました。

今後、卒後指導委員会においても、広い視野を持って支援を継続していきたいと思っております。ここに、卒後ワークライフバランスについて考える会 2020-2021 の報告書を作成いたしましたのでご参考にしていただければ幸いです。

最後に、ご多用の中ご参加いただきました卒業生に心より感謝申し上げます。

## Ⅱ. 卒後ワークライフバランスについて考える会 in Jichi

## II-1. 2020 年度

### 1. 開催概要

概 要 「卒後ワークライフバランスについて考える会 2020 in Jichi」

第1部：卒業生による講演

第2部：懇談会

目 的 女子学生の増加に伴い、卒業後の義務年限の履行と結婚・出産・育児との両立が今後の課題となることが避けられない状況の下、学生に在学中からキャリアの面について卒後のワークライフバランスをイメージしてもらう機会を設けるとともに、より多くの卒業生と顔見知りになってもらう。

令和2年6月28日、学生寮にて「卒後ワークライフバランスについて考える会 2020 in Jichi」の開催を予定していましたが、新型コロナウイルス感染拡大により、2020年度の開催は見送ることになりました。ご協力いただきました卒業生のみなさまに、深く御礼申し上げます。

## 卒後ワークライフバランスについて考える会 2020 in Jichi

日 時 2020年6月28日（日）

場 所 本学医学部学生寮 大ラウンジ

対 象 卒業生、医学部学生、教職員  
(男女問いません)

講演会 10:00～12:10

講演① 明石 陽介 先生 (奈良県24期)

南奈良総合医療センター・総合診療科部長  
へき地医療支援センター長  
奈良県学外卒後指導委員  
奈良県へき地医療支援機構専任担当官

講演② 山本 智美 先生 (北海道33期)

香川県立中央病院・へき地医療支援センター医長  
女性医師支援ブロック担当

懇談会 12:10～14:00

昼食をとりながら交流会  
卒業生と在学生の情報交換会

チューターとして参加

小野 剛 先生 (秋田県6期・医燈会長)

甘利 香織 先生 (佐賀県25期)

水橋由美子 先生 (熊本県37期)

平田まりの 先生 (埼玉県40期)

主 催：卒後指導委員会  
協 力：高本和彦、牧野伸子、石川鎮清、  
石川由紀子、小島華林、山本さやか  
事務局：地域医療推進課  
協 賛：自治医科大学医学部同窓会(医燈会)

参加費無料  
ランチとお菓子をご用意しています！

●今回のテーマ

「みんなで考えよう！

～地域医療とワークライフバランス～

今年も、卒業生をお招きし、お話を伺う機会を設けました。義務年限中は一人診療所勤務を経験され、現在では後輩医師のサポートに尽力する卒業生、結婚協定により2つの都道府県で勤務し、昨年義務明けとなった卒業生の2名をお招きします。

講演後には、招聘した卒業生をはじめ、地域で活躍する卒業生、学内に勤務する卒業生や学生などと考えを深めるディスカッションを開催予定です。

普段じっくりとワークライフバランスについて話をする機会は少ないと思いますので、この機会に卒業生医師から学生へのメッセージを頂けたら幸いです。

卒業生が集まる貴重な機会でもあります。講演会または懇談会だけの参加可能ですので、ぜひお申し込みください。

参加申込締切 6月12日(金)

無料託児もあります(要事前予約)

申込方法：電話、メール、FAX

申込先・問合せ：地域医療推進課 担当：神谷、柳

TEL：0285-58-7055 (内線3393)

FAX：0285-44-6274

MAIL：chisui@jichi.ac.jp

メール(QRコード)



## Ⅱ-2. 2021 年度

### 1. 開催概要

- 概 要 「卒後ワークライフバランスについて考える会 2021 in Jichi」  
前半：卒業生による講演  
後半：卒業生と在学生の意見交換
- 目 的 女子学生の増加に伴い、卒業後の義務年限の履行と結婚・出産・育児との両立が今後の課題となることが避けられない状況の下、学生に在学中からキャリアの面について卒後のワークライフバランスをイメージしてもらう機会を設けるとともに、より多くの卒業生と顔見知りになってもらう。
- 開 催 日 令和3年6月26日（土）
- 開催方法 Zoom を利用したオンライン開催  
(学生寮で担当教員がお弁当を手渡し、各自室でお弁当を食べながら参加)
- 参 加 者 92名（卒業生20名、学生61名、関係者11名）
- 主 催 卒後指導委員会（地域医療推進課）
- 協 賛 医学部同窓会（医燈会）
- 協 力 者 高本 和彦（卒後指導委員会女性医師支援オブザーバー）  
牧野 伸子（卒後指導委員会女性医師支援オブザーバー）  
石川 鎮清（卒後指導委員会女性医師支援担当）  
石川由紀子（卒後指導委員会女性医師支援担当）  
小島 華林（卒後指導委員会女性医師支援担当）  
白石 裕子（卒後指導委員会女性医師支援担当）  
山本さやか（卒後指導委員会女性医師支援担当）  
医学部学生

## 2. 次第

テーマ：みんなで考えよう！～地域医療とワークライフバランス～

司会進行：地域医療推進課長

時間	内容	備考
12:00	お弁当配付	大ラウンジで学生にお弁当と資料を配付
12:30	接続テスト	
13:00	開会挨拶	小谷 和彦 卒後指導委員長
13:05	医学部同窓会長挨拶	小野 剛 会長（秋田県6期卒業） 市立大森病院 院長
13:10	卒後指導関係者紹介	
13:15	J-PASS について	女性医師支援担当 小島 華林 医師
13:25	講演①	明石 陽介 医師（奈良県24期卒業） 南奈良総合医療センター 奈良県へき地医療支援機構 専任担当官 奈良県学外卒後指導委員
13:50	講演②	山本 智美 医師（北海道33期卒業） 香川県立中央病院 女性医師支援ブロック担当
14:15	休憩	
14:25	意見交換	司会：女性医師支援担当 白石 裕子 医師 参加卒業生： 明石 陽介 医師 山本 智美 医師 小野 剛 会長 甘利 香織 医師（佐賀県25期卒業） 平田まりの 医師（埼玉県40期卒業）
15:15	閉会挨拶	高本 和彦 医学部審議監（兼）卒後指導部長
15:20	アンケート記入	
15:40	アンケート回収 同窓会からプレゼント	大ラウンジでアンケート回収後、 学生に同窓会からのプレゼントをお渡し

# 卒後ワークライフバランス について考える会2021 in Jichi

みんなで考えよう!～地域医療とワークライフバランス～

Zoomによる  
オンライン開催  
(参加無料!)

日時:2021年6月26日(土)

対象:医学部学生、卒業生、教職員(男女問いません)

## ◆ 講演会 13:00～14:15

### 講演①

#### 明石 陽介 先生(奈良県24期)

奈良県学外卒後指導委員  
奈良県へき地医療支援機構 専任担当官  
南奈良総合医療センター 総合診療科 部長



**学生限定★**  
参加者に学生寮で  
ランチのお弁当を配付!  
同窓会からプレゼント  
もあります!



### 講演②

#### 山本 智美 先生(北海道33期)

女性医師支援ブロック担当  
香川県立中央病院  
へき地医療支援センター 医長

教員の先生が  
配ります!



## ◆ 意見交換会 14:15～15:20

参加卒業生

小野 剛 先生(秋田県6期・医燈会長)

甘利 香織 先生(佐賀県25期)

平田 まりの 先生(埼玉県40期)

申込締切 6月9日(水)

※定員に達し次第、締切

申込方法:①出身都道府県、②卒業期・学年、  
③氏名を記載の上、[chisui@jichi.ac.jp](mailto:chisui@jichi.ac.jp)まで  
メールでお申し込みください

主催 卒後指導委員会

協力 高本 和彦 牧野 伸子  
石川 鎮清 石川 由紀子  
小島 華林 白石 裕子  
山本 さやか

協賛 自治医科大学医学部同窓会(医燈会)

事務局:地域医療推進課  
Tel:0285-58-7055  
Mail:chisui@jichi.ac.jp

メールここから  
読み込めます



### 3. 開催内容

6月26日(土)、「みんなで考えよう!～地域医療とワークライフバランス～」をテーマに「卒後ワークライフバランスについて考える会 2021 in Jichi」を開催しました。平成24年度から開催している本会も、今回で11回目の開催となりました。例年、医学部学生寮で開催しておりますが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、学生寮でお弁当を手渡ししながら、担当教員と学生が短いながらも交流の時間を持ち、その後、Web会議システムZoomを用いて会を開催しました。初めてのオンライン開催となりましたが、当日は92名(卒業生20名、学生61名、関係者11名)の参加がありました。

#### 前半 講演会

---

会の前半では、卒業生2名からご講演をいただきました。はじめに、明石陽介先生(奈良県24期)にお話いただき、次に山本智美先生(北海道33期)にご講演いただきました。明石先生は現在、卒業生のマネジメントにあたるお立場から、山本先生からは結婚協定で2つの都道府県で勤務された経験をお話いただき、参加者は熱心に耳を傾けておりました。

講演① 明石 陽介 医師(奈良県24期卒業)  
奈良県学外卒後指導委員  
奈良県へき地医療支援機構 担当専任官  
南奈良総合医療センター 総合診療科 部長



講演② 山本 智美 医師(北海道33期卒業)  
女性医師支援ブロック担当  
香川県立中央病院  
へき地医療支援センター 医長



#### 後半 意見交換

---

後半は意見交換として、参加している卒業生と学生でディスカッションを行いました。意見交換のテーマを「10年後のわたし」として、学生にとっての10年後=義務年限が明けた頃の自分を想像してもらおう機会としました。チューターとして、小野剛先生(秋田県6期)、甘利香織先生(佐賀県25期)、平田まりの先生(埼玉県40期)をお招きし、それぞれの立場から義務年限についてお話をいただきました。

テーマ「10年後のわたし」

司会：白石 裕子 医師（女性医師支援担当）

チューター：小野 剛 会長（秋田県6期卒業、医学部同窓会長）

甘利 香織 医師（佐賀県25期卒業）

平田 まりの 医師（埼玉県40期卒業）

#### 卒業生コメント

義務年限中は、具体的にどうしたいのか全くイメージができていなくて、当時はへき地勤務に備えて、どんなことを習得するかばかり考えて過ごしていた。義務年限が終わったら、どこかで誰かを見つけて結婚したりするのかなと思ってぼんやり過ごしていた9年だった。その時代のワークライフバランスという意味では、ほぼワークしかなかったが、人生はトータルコーディネートなので、そういった時期もあってもいいと思う。世代間ギャップやジェンダーギャップのようなものが未だに意識としてあると思うので、理解を得るためには、対話が重要だと考えている。

#### 卒業生コメント

仕事にどれだけの時間を割くのか、どれだけ大事にするのか、結婚するのか・しないのか、子どもはほしいのか、年齢が上がってくると親の介護のことも考えようになる。自分のために動いてくれるのは自分だけだと先輩に言われたことがあり、自分が後悔しないためにも考えることは非常に重要だと感じている。県人会の繋がりは、学生時代からそのまま卒業後も繋がるので本当に大事。義務年限が明けた先輩からもアドバイスをいただくことがあるので、県人会は大事にしていくべきだと今も強く思っている。



### 卒業生コメント

義務年限中にお子さんが生まれた卒業生夫婦と勤務したことがあるが、そのときに思ったのは、自治医大卒業生は大変よく頑張るということ。医師・看護師をはじめとする職員、患者さんともうまくコミュニケーションを取り、良い関係を構築し、信頼を得ていた。調子が悪い時に休んでも、職員の家族がボランティアで子どもの面倒を看てくれたり、周囲がサポートしてくれていた。一生懸命頑張って、信頼関係を構築することでワークライフバランスを保っていたと思う。これから地域に出るみなさんにも、配置先の周りの方々、県人会のみんなともコミュニケーションをとって、良好な関係を保つことがワークライフバランスの秘訣だと思う。

### 学生コメント

何科に進むか、どうやって勉強していくか等、普段は医学面を考えることが多いが、ワークライフバランスについて考える会に参加して、自分のライフ面を考える機会となり、とても刺激的だった。自分の10年後は漠然としていて、まだイメージができていないが、義務年限後は自分にも相手がいて、子育てができていればいいと思う。女性ならそういうことも考えるライフステージにいと、今さらながら感じた。今日参加して思ったのは、家事や育児で苦勞することも、キャリア形成のひとつの過程というか、医師としての成長の一過程だと思った。例えば、仕事とプライベートの両立で苦勞した先生は、同じ状況の同僚や患者さんのことをよく理解できるし、適切な対処、配慮ができるようになると思う。医師としての成長に役立つと捉えることが大事だと思った。

### 教員コメント

私自身もこれまで困ったことがたくさんあった。人生の選択に正解や不正解はないが、やっぱり最後に決めるのは自分。決めるときにどんなタイミングで決断をしていたかと思えば、誰かに相談した後だった。相談できる相手、自分の心の支えになりそうな相手が、人それぞれ違うので、そのような方にぜひ出会ってほしいと思う。この意見交換の時間の間にも、いろんな考えがあって、先輩方がいろんな道を示してくれていることがわかったと思う。この人に聞いてみたい、この人なら相談したいと思う人に出会えたなら、この会は良い会だったと言えるかなと思う。例年と違い、オンライン開催でみなさんの熱量を感じる事が難しいが、昨年度は開催できなかったもので、このような形であっても卒業生のご協力のもと、このような時間を設けられてよかったと思う。

## 学生寮にて

会の開始前には、卒後指導委員会女性医師支援担当教員が学生寮に出向き、参加学生へお弁当を配付しました。また前回の会から医学部同窓会に協賛をいただいております、参加した学生全員にチョコレートの差し入れをいただきました。この場をお借りして、深く御礼申し上げます。担当教員から学生にチョコレートを手渡ししながら、会の感想など2～3言の言葉を交えながら、学生と交流会での思いを共有しました。



卒後ワークライフバランスについて考える会2021 in Jichi アンケート集計結果

○アンケート結果報告

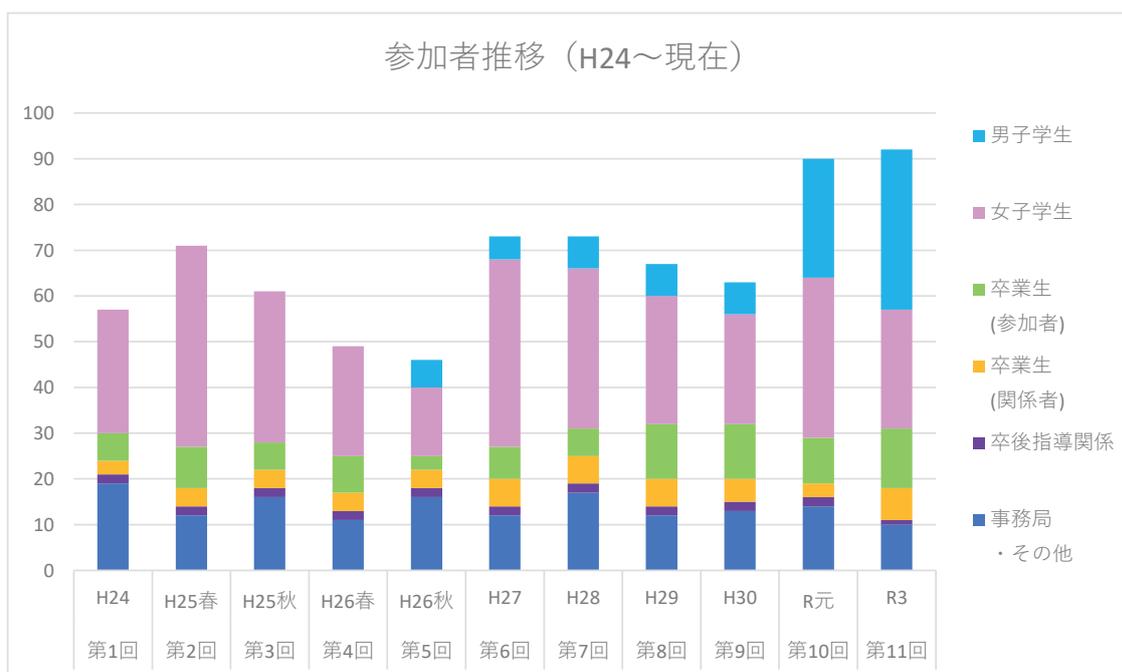
出席者総数（※途中の入退室は不明）

学生	61	（男子35名、女子26名）
卒業生	20	（参加者13名、関係者7名）
関係者	11	（卒後指導関係1名、関係者1名、事務局9名）
合計	92	

参加者推移（H24年度～現在）

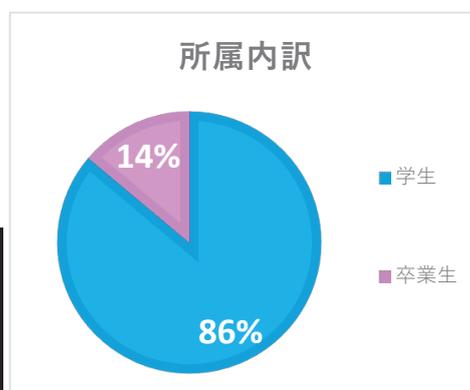
開催実績                      参加者内訳

開催回数	年度	男子学生	女子学生	卒業生 (参加者)	卒業生 (関係者)	卒後指導関係	事務局 ・その他	合計
第1回	H24	0	27	6	3	2	19	57
第2回	H25春	0	44	9	4	2	12	71
第3回	H25秋	0	33	6	4	2	16	61
第4回	H26春	0	24	8	4	2	11	49
第5回	H26秋	6	15	3	4	2	16	46
第6回	H27	5	41	7	6	2	12	73
第7回	H28	7	35	6	6	2	17	73
第8回	H29	7	28	12	6	2	12	67
第9回	H30	7	24	12	5	2	13	63
第10回	R元	26	35	10	3	2	14	90
第11回	R3	35	26	13	7	1	10	92



アンケート調査対象者（※関係者、事務局を除いた参加者）

	男性（男子）	女性（女子）	合計
学生	35	26	61
卒業生	6	7	13
合計	41	33	74

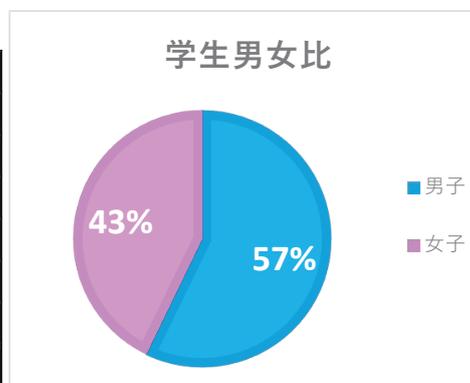


アンケート回収率

	男性（男子）	女性（女子）	合計	回収率
学生	32	24	56	92%
卒業生	4	5	9	69%
合計	36	29	65	88%

【学生】学年別内訳

	男子	女子	合計
6年	6	2	8
5年	7	6	13
4年	3	5	8
3年	6	3	9
2年	3	0	3
1年	7	8	15
合計	32	24	56



1. このような会は必要だと思いますか。

必要	54
どちらかと言えば必要	11
どちらかと言えば不要	0
不要	0
わからない	0
合計	65

【学生のみ】

必要	45
どちらかと言えば必要	11
どちらかと言えば不要	0
不要	0
わからない	0
合計	56

2. 黄色の小冊子は読んでいかがでしたか。【学生のみ設問】

非常によかった	24
よかった	30
ふつう	2
よくなかった	0
非常によくなかった	0
合計	56

3. キャリアに関する授業があればよいと思いますか。【学生のみ設問】

そう思う	38
どちらかと言えばそう思う	17
どちらかと言えばそう思わない	0
そう思わない	1
	56

4. 都道府県ごとに学生と卒業生の交流会があったほうがよいと思いますか。

そう思う	51
どちらかと言えばそう思う	14
どちらかと言えばそう思わない	0
そう思わない	0
	65

【学生のみ】

そう思う	43
どちらかと言えばそう思う	13
どちらかと言えばそう思わない	0
そう思わない	0
	56

5. 学生や卒業生へのキャリアに関する相談窓口があるのを知っていますか。

はい	16
いいえ	48
無回答	1
	65

【学生のみ】

はい	10
いいえ	45
無回答	1
	56

○窓口を具体的に知っていれば教えてください。

【卒業生の回答】

- ・ 県人会の先輩、卒後指導委員、県庁、地域医療推進課

【学生の回答】

- ・ 地域医療推進課
- ・ 地域医療推進課卒後指導係
- ・ 地域医療推進課、公衆衛生学の牧野先生
- ・ 卒後指導委員会
- ・ 詳細は把握できていない

6. 今回参加しようと思った理由は何ですか。（最も強く当てはまるものを一つ選んでください。）

テーマ	12
講演者の先生	16
周りからの誘い	30
その他	5
無回答	2
	65

【学生のみ】

テーマ	8
講演者の先生	14
周りからの誘い	28
その他	4
無回答	2
	56

○その他

【卒業生の回答】

- ・ 今までも参加したかったが距離的に無理だったが、今回web開催だったので参加できた。

【学生の回答】

- ・ 県人会（3名が回答）
- ・ ポスター

7. 次回も参加したいと思いますか。

思う	56
思わない	1
わからない	7
無回答	1
	65

【学生のみ】

思う	47
思わない	1
わからない	7
無回答	1
	56

○理由【学生のみ】

<思うと回答した主な理由>

- ・ ワークライフバランスについてあまり考える機会がないから。
- ・ いろいろな先輩方の具体的な話や意見を聞きたいから。
- ・ この会でしか知ることのできない内容があるように感じたから。
- ・ 学生のうちから将来のことについて考える機会になるから。

<思わないと回答した理由>

- ・ 1回聞けば大丈夫だと思うから。

<わからないと回答した理由>

- ・ 内容的には興味深い部分もあるが、開催時期にもよるから。
- ・ 学年的に。（6年生の回答）
- ・ 勉強との兼ね合いのため。

### Ⅲ. 卒後ワークライフバランスについて考える会 J-PASS ブロック担当会議

## Ⅲ-1. 卒後ワークライフバランスについて考える会 2020 年度 J-PASS ブロック担当会議

### 1. 開催概要

概 要 「卒後ワークライフバランスについて考える会 2020 年度 J-PASS ブロック担当会議」

目 的 大学及び各ブロックでの取り組みに関する情報を共有し、現在の問題点を把握し、卒業生女性医師支援を充実させていく過程での基礎を築く。

開催日 令和2年8月21日（金）

会 場 自治医科大学 教育・研究棟 1階 会議室 1  
※学外の参加者は、ウェブ会議システム「Zoom」によるオンライン参加

参加者 18名（卒業生8名、関係者10名）

主 催 卒後指導委員会（地域医療推進課）

協力者 高本 和彦（卒後指導委員会女性医師支援オブザーバー）  
牧野 伸子（卒後指導委員会女性医師支援オブザーバー）  
石川 鎮清（卒後指導委員会女性医師支援担当）  
石川由紀子（卒後指導委員会女性医師支援担当）  
小島 華林（卒後指導委員会女性医師支援担当）  
山本さやか（卒後指導委員会女性医師支援担当）



## 2. 次第

日 時：令和2年8月21日（金）13：00～14：30

時刻	所要時間	内容	摘要
12：45	15分	集合・受付	
13：00	5分	開会挨拶	三浦 光一 卒後指導副委員長
13：05	40分	近況報告～1年間を振り返って～ 1 ブロック担当者より  2 学内者より	
13：45	5分	休憩	
13：50	40分	全体討論 今後の地域ブロックにおける支援活動の展開について  1 J-PASS 活動報告  2 今後のネットワークの構築について  まとめ	議事進行 石川 鎮清 医師  発表者 山本 さやか 医師  牧野 伸子 卒後指導副部長
14：30	5分	閉会挨拶	高本 和彦 医学部審議監(兼) 卒後指導部長

### 3. 開催内容

令和2年8月21日（金）に「卒後ワークライフバランスについて考える会 2020年度 J-PASS ブロック担当会議」を開催しました。例年、東京にて開催している本会ですが、昨今の新型コロナウイルス感染症の状況を鑑み、今回は学内での開催とし、地域の卒業生はウェブでご参加いただきました。

医学部卒後指導委員会では、義務年限中の女性医師支援の活動の一環として「卒後ワークライフバランスについて考える会」と称し、卒業生の講演会と学生・卒業生との懇談会を行っております。そのなかで本会は、全国の地域ブロックにおいて女性医師支援の中心的な役割を担っていただく卒業生にご参加いただき、今後の自治医大の支援活動について、有意義な意見をいただく場として位置付けております。今回で8度目の開催となりますが、13期～33期までのブロック担当の卒業生8名にご参加いただきました。始めにブロック担当、学内者からこの1年の活動報告があり、その後、全体討論を行いました。

全体討論では、「今後の地域ブロックにおける支援活動の展開について」をテーマとして、ディスカッションを行いました。昨今の新型コロナウイルス感染症の影響下で、今後どのような支援ができるのか、終始活発な意見交換がなされました。



# 1年間の歩み

自治医大女性医師支援  
卒後指導委員会

令和2年8月



## J-PASS 1年間の歩み

- ・ 卒後ワークライフバランスについて考える会  
2019年度J-PASSブロック担当会議 (R1. 8)
- ・ 都道府県別訪問調査：奈良県内で勤務する卒業生 (R1. 11)
- ・ 個別聞き取り訪問調査：紙谷夫妻 (R1. 11)
- ・ 卒後ワークライフバランスについて考える会  
2020 in Jichi (R2. 6) →開催見送り
- ・ 学生懇談会

## 卒後ワークライフバランスについて考える会 2019年度J-PASSブロック担当会議 (R1. 8. 23)

前半：ランチョンセッション ～1年間の振り返って～  
1. ブロック担当者からの報告 (ブロック担当9名からそれぞれご報告)  
2. 学内者からの報告

後半：全体討論  
テーマ「今後の地域ブロックにおける支援活動の展開について」

大学が少しずつ蓄積してきたノウハウをブロック担当と共有し、地域での活動に活かしていく

女性医師支援ブロック担当の卒業生

山本 智美	(北海道33期)
新井 由季	(栃木県25期)
渡邊 ありさ	(埼玉県24期)
中村 剛史	(静岡県23期)
影向 一英	(新潟県24期)
横谷 倫世	(奈良県21期)
白石 裕子	(島根県17期)
十枝 めぐみ	(香川県13期)
定金 敦子	(福岡県22期)

## J-PASS 都道府県別訪問調査のしおり ～都道府県内のPASS～ の発行

J-PASSの活動の中の都道府県別訪問調査に焦点を当て、これまでの歩みをまとめました

都道府県別訪問調査の目的  
各都道府県内のネットワークを強化する  
～都道府県内のPASS～

## 卒後ワークライフバランスについて考える会 ～地域で中心的な役割を果たす卒業生との意見交換会 (J-PASSブロック会議) ～ 開催実績

開催日	テーマ
2013年 8月 9日	これまでの女性医師支援取り組みの現状報告/これからの取組みについて
2014年 8月29日	働きやすい職場について
2015年 8月28日	地域における女性医師支援ネットワークづくりに役立つ参考事例
2016年 8月26日	ブロック担当の1年間の活動報告/結婚協定者を対象とした意識調査実施のための提案
2017年 8月25日	結婚協定締結者を対象とした意識調査アンケートに係る結果報告/卒業生の地域における支援体制の構築～広報戦略について～
2018年 8月31日	卒業生の地域における支援体制の構築～広報戦略の具体化について～
2019年 8月23日	今後の地域ブロックにおける支援活動の展開について
2020年 8月21日	今後の地域ブロックにおける支援活動の展開について

## 令和元年度 都道府県別訪問調査～卒業生の集まり～

### ◆奈良県勤務の卒業生 (R1. 11. 24)

《調査に協力いただいた卒業生》

阪口 昌子	(秋田県 4期)
横谷 倫世	(奈良県21期) ※女性医師支援ブロック担当
佐伯 圭吾	(奈良県22期)
明石 陽介	(奈良県24期) ※奈良県学外卒後指導委員
紙谷 直毅	(奈良県32期)
紙谷 史夏	(香川県32期)
穂西 実加	(奈良県34期)
西岡 歩美	(奈良県35期)
池上 春香	(香川県37期)
大西 真衣	(奈良県41期)
関岡 叙衣	(奈良県42期) [11名]

近況報告 → 経験を基にアドバイス → ヒントを得る & 刺激

## 都道府県別訪問調査～卒業生の集まり～ 開催実績

開催日	開催都道府県	出席者数
2013年 10月 5日	島根県	9
2014年 10月19日	香川県	13
2015年 11月14日	山口県	9
2016年 11月 5日	広島県	8
2017年 11月23日	新潟県	10
2018年 11月25日	岩手県	9
2019年 3月31日	大阪府	18
2019年 11月24日	奈良県	14

令和元年度

## 個別聞き取り調査

□ 訪問の趣旨  
地域での勤務において

両立...?

医師 / 結婚 / 出産 / 育児

地域において勤務と育児を両立している女性卒業生を訪問し、両立についての現状把握と両立のための要素を浮き彫りにする

勤務との両立に悩むケースが増加している

学生や女性卒業生へフィードバック

令和元年度 個別聞き取り調査

◆奈良県橿原市 (R1.11.24)

《調査に協力いただいた卒業生》

- 紙谷 直毅 (奈良県32期)
- 紙谷 史夏 (香川県32期)
- ・ 卒後1年目から結婚協定締結

⇒卒後4年目の5月に第一子、卒後7年目の3月に第二子を出産。  
育休取得せず。産前産後休暇のみで復帰。

《周囲の協力について》

ここまでなんとかやれているのは、いつも近くに助けてくれる誰かがいるからだと思う。  
いつも近くに相談に乗ってくれる先輩方がいて、よくしていただいた。



9

卒後ワークライフバランスについて考える会2020in Jichi (R2.6.28)

テーマ「みんなで考えよう！  
～地域医療とワークライフバランス～」

講演Ⅰ 明石 陽介 医師 (奈良県24期)  
奈良県学外卒後指導委員

講演Ⅱ 山本 智美 医師 (北海道33期)  
女性医師支援ブロック担当

チューター

- 甘利 香織 医師 (佐賀県25期)
- 水橋由美子 医師 (熊本県37期)
- 平田まりの 医師 (埼玉県40期)

⇒新型コロナウイルス感染症の影響で開催見送り



10

卒後ワークライフバランスについて考える会in Jichi 開催実績

参加学生の限！  
(2019.6.30)

開催日	テーマ
2012年 11月20日	卒後ワークライフバランスについて考える
2013年 5月26日	キャリア形成について
2013年 11月22日	育児と仕事の両立について
2014年 5月25日	キャリアについて
2014年 11月20日	育児と仕事の両立について
2015年 7月 5日	キャリア形成、仕事と子育ての両立
2016年 6月19日	キャリア in the Future
2017年 6月11日	地域でのワークライフバランスとキャリアを支える
2018年 7月 1日	ワークライフバランスとキャリアの進展 ～自治医大生でよかったこと、悪(！?)かったこと～
2019年 6月30日	ワークライフバランスとキャリアの進展 ～どんなLIFE?～

様々な形でワークライフ  
に向き合う先輩方のお話  
が聞けてよかったです！

仕事と生活のバランス  
について、3者3様で  
話術があるだけでほな  
いとわかった！

様々な地域で、様々な医療  
活動、プライベートの過ごし  
方を聞けて、とても参考  
に became!

ぼやっとしかわからな  
かった卒業生の話がリアル  
に感じられた！



11

学生懇談会 開催実績

テーマ：～卒業生と共に地域におけるキャリアデザインを描こう！～

開催日	演者の卒業生	対象の都道府県
2015年 9月17日	小黑 真希子 (富山県・30期)	富山県
2015年 9月25日	白土 綾佳 (茨城県・26期)	茨城県
2016年 10月20日	神谷 尚子 (岡山県・30期)	岡山県・愛知県
2016年 11月30日	松原 優里 (京都府・28期)	京都府・栃木県
2017年 10月26日	三橋 乃梨子 (徳島県・34期)	徳島県
2018年 11月27日	松本 歩 (秋田県・25期)	秋田県・高知県
2019年 6月30日	井岡 亜希子 (大阪府・19期)	大阪府・秋田県 沖縄県



12

J-PASS

Jichi  
Post graduation  
Self-Affirmation  
Support  
System



それぞれのワークライフバランスを保ちながら、今の自分自身を肯定して  
楽しんで人生を進んでいってほしい

ご清聴  
ありがとうございました。

13

## Ⅲ-2. 卒後ワークライフバランスについて考える会 2021 年度 J-PASS ブロック担当会議

### 1. 開催概要

- 概 要 「卒後ワークライフバランスについて考える会 2021 年度 J-PASS ブロック担当会議」
- 目 的 大学及び各ブロックでの取り組みに関する情報を共有し、現在の問題点を把握し、卒業生女性医師支援を充実させていく過程での基礎を築く。
- 開 催 日 令和 3 年 8 月 2 0 日 (金)
- 開催方法 ウェブ会議システム「Zoom」によるオンライン開催
- 参 加 者 2 0 名 (卒業生 8 名、関係者 1 2 名)
- 主 催 卒後指導委員会 (地域医療推進課)
- 協 力 者 高本 和彦 (卒後指導委員会女性医師支援オブザーバー)  
牧野 伸子 (卒後指導委員会女性医師支援オブザーバー)  
石川 鎮清 (卒後指導委員会女性医師支援担当)  
石川由紀子 (卒後指導委員会女性医師支援担当)  
小島 華林 (卒後指導委員会女性医師支援担当)  
白石 裕子 (卒後指導委員会女性医師支援担当)  
山本さやか (卒後指導委員会女性医師支援担当)



## 2. 次第

日 時：令和3年8月20日（金）13：00～15：00

時刻	所要時間	内容	摘要
12：45	30分	集合・受付	
13：00	5分	開会挨拶	三浦 光一 卒後指導副委員長
13：05	45分	近況報告 ～つながり方の変化について～  1 ブロック担当者より  2 学内者より	
13：50	5分	休憩	
13：55	60分	全体討論 これからのコミュニケーションのあり方 ～ロールモデルとは～  まとめ	議事進行 石川 鎮清 医師  まとめ 牧野 伸子 卒後指導副部長
14：55	5分	閉会挨拶	高本 和彦 医学部審議監 (兼) 卒後指導部長

### 3. 開催内容

#### 近況報告 ～つながり方の変化について～

---

コロナ禍になり、いろんな変化があるなかで1年が経ち、慣れてきたこと、まだ試行錯誤を重ねていること等、多々ある中でブロック担当者および学内者より、コロナ禍での変化にふれながら、近況を報告いただきました。

##### 【コロナ禍であった出来事】

###### ワークに関すること

- ・コロナ対応のため、手術数の制限が断続的に実施。
- ・発熱、呼吸器症状に敏感。
- ・流行初期に健診や内視鏡の抑制…仕事ができなくなるかもしれない、心配。
- ・休日のワクチン業務に参加。
- ・離島の医療・施設のあり方を考えた。

人口減少による施設維持の難しさ、遠方からの介護者、県を越えての紹介の難しさ

- ・感染拡大期には、保健所の応援で、疫学調査、施設調査、クラスター対策など。感染が落ち着くと、産業医として、感染拡大期に過重な勤務を行った職員やその所属長への支援。
- ・昨年からの専門医、医英検など試験は全てキャンセル。
- ・学会、研究会などは、オンライン開催が多くなった。県との会議も基本リモート会議。
- ・リモート会議というけれど、雑談がない…。耳学問がない…。
- ・リモートの環境が整っていないと、周りが気になる。PCに強くないとストレス。  
(聞こえない、画像の共有…)
- ・リモート会議の利点は、移動時間が不要。不在時間も短くて済む。

###### 自治医大生の繋がりのこと

- ・県内卒業生との食事会がコロナで実施できず、新卒の卒業生との繋がりが希薄に感じる。
- ・年2回、定期的に行われている県内卒業生の会合は、Zoomでの開催。  
オンライン開催は、日程調整がしやすい、出張しなくて良い等の利点もあることを実感。

###### ライフに関すること

- ・子育てでは、学校行事・PTA行事が激減した。(けど役員には当たる…)
  - ・趣味では、旅行、ミュージカル鑑賞やスポーツ観戦ができなくなった。
  - ・外食の機会が激減した。
  - ・編物や読書など家で楽しむ、市内の温泉旅館に泊まる、近所の山に登る。
  - ・自宅リビングでフィットネス、自宅でバーベキュー。
- ・今、もう少し我慢して、来年こそは皆さんにお会いできますように。

## 全体討論

後半は、「これからのコミュニケーションのあり方～ロールモデルとは～」をテーマに全体討論を行いました。コロナ禍で非対面のやり取りが増え、人と人との関わり方も変化が生まれていると感じることから、コロナ禍での自身のコミュニケーションの変化や体験を踏まえながら、これからのコミュニケーションのあり方やロールモデルについて、活発な意見交換が行われました。

- ・普段会って話すと明るい後輩も、メールではとても生真面目な印象を受ける。堅い文面で返事がきて、対面ではないコミュニケーションの難しさを感じる。対面であれば、表情や声のトーン、しゃべり方などいろいろな要素から人となりを感じることができる。文章だけだと本質がわかりにくい。
- ・情報を取りに行くのが上手な人は自ら動けるが、どこからどうしたらいいかわからない人、そうとは言えなかなか声をかけることができない人とは差が開いてしまうのではないかと思う。できる人ばかりではないと思うので、大学側からの発信も大切で、どうやって必要な人に伝えるかみんなで話し合えたらと思う。
- ・キャリアを重視している人は、あまり弱音を吐いてくれない感じがしている。大変だと思うのに「大丈夫」という子が多い。定期的にこちらから連絡するようにしているが、求められているような感じもしなくて、どういう風に関わっていけば良いか悩む。
- ・人それぞれワークライフバランスの考え方が違うため、どうアプローチしていいのかなと思うこともある。コロナ禍で、相手の表情を見ながら空気を読んで声をかけることができなくなったということは大きいと思う。
- ・子育てをしている人の生き方が非常に多様になった。男性の子育てへの参画も大きいと思うが、キャリア重視でいくか、ワークライフバランス重視でいくかを選べる時代になってきていると感じる。社会の受け止め方も変わってきた。昔は仕事もできて子育ても完ぺきといったロールモデルがよく紹介されていて、他大卒医師とは異なる自治医大生の特殊性をいつも感じていたが、世の中全体にワークライフバランスを重視する人と、キャリアをしっかりと積み上げていく人がいて、それぞれロールモデルが違う。自分と違うロールモデルに対して相談できるだろうかといったところだと思う。
- ・いろんな人がいて、道があって、人の役に立ち、仕事を続けていけることを後輩に伝えたいと思っている。今の自分には必要ないもの、今はキャリアを重視したい人も、「困ったときには連絡してね」と、仕事も子育ても完ぺきじゃなくてもやっていけるというロールモデルも提供していく必要があるのではないかと思う。



- みんな考え方が違うというのが前提で、どのように子育て・仕事をするのかは自由。それを聞いてあげられる窓口になり、適切に繋いであげられる、ゆるやかな組織になれば良いかなと思う。ブロック担当の先生方もいろいろなキャリアの先生がいて、大きな病院に勤めている人、診療所で勤務している人もいて、キャリアは一様ではない。多様性のなかで、いろいろな人に対応しているというメッセージにもなる。
- 自治医大卒業生が他の医師と違うところは、義務年限があってへき地勤務がある。親の援助が得られなかったり、保育園の問題だったり、同じ県内であっても行く地域によって違うので難しい。都道府県ごとの事情が違うので、その都道府県やその病院の情報、ローカルネタは必要になる。ブロック担当で他都道府県の詳しい事情まで把握するのは難しいかもしれない。
- 県人会に学生が参加していない都道府県もけっこうある。卒業生と学生で顔を合わせる機会をつくると良いと思う。卒業生には学生が今どんな状況なのかを知る機会になるし、学生には卒業生が今こんなことで困っているという話を聞いてもらって、身近なところからじわじわ繋げていけたら良いと思った。
- 困ったことを打ち明けるところにいちばんハードルがあるような気がする。ゆるやかな窓口で、多様なロールモデルを提示できるのは良い。この会の存在や先生方がいろいろなタイプのロールモデルであることを学生はまだ気づいていないと感じた。いろいろな卒業生と学生をゆるやかな繋がりで繋いであげることが必要と思った。
- J-PASS は意識改革を考えていく会だが、実際に意識改革のシステムを考えないといけないところに来ているのかなと感じた。昔は1人のロールモデルを目指していく感じがあったが、今はそれぞれの心の中にロールモデルをつくっておいてもらい、心の中のロールモデルが実際にはあの先生はそれに近いなといった知識を持っていただくことができるようになれば良いと思った。





**J-PASS**  
1年間の歩み  
～自治医大女性医師支援からの展開～  
卒後指導委員会  
令和3年8月

J-PASS 1年間の歩み

- ・ 卒後ワークライフバランスについて考える会  
2020年度J-PASSブロック担当会議 (R2. 8)
- ・ 個別聞き取り訪問調査：静岡県卒業生 (R2. 11)
- ・ 頑張っているあなたへのメッセージ  
～先輩たちからのPASS～第二版の発行 (R3. 3)
- ・ 卒後ワークライフバランスについて考える会2021 in Jichi (R3. 6)
- ・ 卒後ワークライフバランスについて考える会  
2021年度J-PASSブロック担当会議 (R3. 8)

個別聞き取り調査

◆静岡県焼津市 (R2. 11. 27) ※Zoomで実施しました

【調査に協力いただいた卒業生】

森下 杏早 (静岡県36期)  
・ 同郷の1期上の卒業生と結婚

⇒ 卒後7年目の3月に第一子を出産。  
産前産後休暇と育児2か月取得後、フルタイム復帰。

【周囲の協力について】  
静岡県人会は仲が良いので、集まって誰にでも相談できる関係になっていると思う。また、夫が同じ勤務先で働いていたため、残った仕事は夫に任せ、周囲の理解を得たりしていた。

頑張っているあなたへのメッセージ  
～先輩たちからのPASS～ 第二版の発行

新たに男性卒業生6名と  
学内のJ-PASS担当教員の  
メッセージを掲載しました

令和3年3月に第二版発行

- ・ 義務年限内卒業生
- ・ 在学生
- ・ 卒後指導関係者 に配付

卒後ワークライフバランスについて考える会2021in Jichi (R3. 6. 26)

テーマ「みんなで考えよう！  
～地域医療とワークライフバランス～」

講演Ⅰ 明石 陽介 医師 (奈良県24期)  
奈良県外卒後指導委員

講演Ⅱ 山本 智美 医師 (北海道33期)  
女性医師支援ブロック担当

チューター  
小野 剛 医師 (秋田県6期、同窓会長)  
甘利 香織 医師 (佐賀県25期)  
平田まりの 医師 (埼玉県40期)

卒後ワークライフバランスについて考える会2021in Jichi (R3. 6. 26)

学生への支援として、当日学生寮にて会が始まる前にお弁当、会が終わったあとにはアンケートと引き換えにチョコレート(同窓会のご支援)をJ-PASSの教員から手渡してプレゼントしました

卒後ワークライフバランスについて考える会in Jichi 開催実績

開催日	テーマ
2012年 11月20日	卒後ワークライフバランスについて考える
2013年 5月26日	キャリア形成について
2013年 11月22日	育児と仕事の両立について
2014年 5月25日	キャリアについて
2014年 11月20日	育児と仕事の両立について
2015年 7月 5日	キャリア形成、仕事と子育ての両立
2016年 6月19日	キャリア in the Future
2017年 6月11日	地域でのワークライフバランスとキャリアを支える
2018年 7月 1日	ワークライフバランスとキャリアの進展 ～自治医大生でよかったこと、悪(！？)かったこと～
2019年 6月30日	ワークライフバランスとキャリアの進展 ～どんなLIFE?～
2021年 6月26日	みんなで考えよう！～地域医療とワークライフバランス～

参加学生の声！！  
(2021.6.26)

ワークライフバランスについて様々な先輩方の話を聞くことができて、とても参考にしたいです！

ワークについて考える機会はあっても、ライフについて考える機会はないと思った。具体的な話を聞けてよかった。

卒業について学生のうちに考え始めるのはいいと思った。卒業のイメージがしやすくなった！

J-PASS  
Jichi  
Post graduation  
Self-Affirmation  
Support  
System

それぞれのワークライフバランスを保ちながら、今の自分自身を肯定して楽しんで人生を進んでいってほしい

ご清聴ありがとうございました。

#### IV. 学生懇談会

## 1. 開催概要

- 概 要 「学生懇談会～卒業生と共に地域におけるキャリアデザインを描こう！」  
岐阜県35期 中村 晃久 医師  
埼玉県35期 中村 香代子 医師
- 目 的 出身県の卒業生と在学中から交流を深めると共に、ワークライフバランス及びキャリアについて話を伺い、卒後の地域勤務への理解を深める。
- 開 催 日 令和3年11月24日（水）17時00分～18時00分
- 会 場 医学部教育研究棟1階 大教室3
- 参 加 者 29名（卒業生2名、在学生22名、関係者5名）
- 主 催 卒後指導委員会（地域医療推進課）
- 協 力 者 高本 和彦（卒後指導委員会女性医師支援オブザーバー）  
牧野 伸子（卒後指導委員会女性医師支援オブザーバー）  
石川 鎮清（卒後指導委員会女性医師支援担当）  
石川由紀子（卒後指導委員会女性医師支援担当）  
小島 華林（卒後指導委員会女性医師支援担当）  
白石 裕子（卒後指導委員会女性医師支援担当）  
山本さやか（卒後指導委員会女性医師支援担当）  
医学部学生



## 2. 開催内容

### 次第スケジュール

- (1) 開会挨拶
- (2) 出席者自己紹介（名前・学年・部活等）
- (3) 義務年限中のお話
- (4) フリートーク
- (5) 写真撮影

令和3年11月24日（水）、本学・地域医療学センター地域医療学部門の中村晃久先生（岐阜県35期）、総合診療内科の中村香代子先生（埼玉県35期）にご協力いただき、岐阜県と埼玉県出身の学生、結婚協定を考えている学生らと小規模懇談会を行いました。コロナ禍で対面の会を久しく見合わせておりましたが、感染対策を講じた上、久しぶりに集まって懇談会を開くことができました。

中村先生ご夫妻からこれまでの勤務などについてスライドを用いてお話しいただいた後は、学生から事前に募集した質問や聞いてみたいことについて率直にお答えいただきました。

義務年限を終了されたばかりの中村先生の具体的なお話は、学生が卒業後を考えるにあたって非常に参考になりました。



※撮影時のみマスクを外しています

## V. 頑張っているあなたへのメッセージ

### ～先輩たちからのPASS～ 第2版 の発行について

平成29年度（2018年3月）に第1版を発行した「頑張っているあなたへのメッセージ～先輩たちからのPASS～」の第2版を、2021年3月に発行しました。

第2版では、J-PASSの活動にご協力くださった男性卒業生、学内の女性医師支援担当教員から新たにメッセージを寄せていただきました。冊子は、義務年限内の卒業生および在学生（男女すべて）に配付しました。



#### あとがき

この冊子は、J-PASSの活動を通じてたくさん卒業生の先生方からいただいた貴重な生の声“言葉の宝”を後進に伝えたい！との思いから生まれました。そして初版の発行から3年、男性卒業生からもメッセージをいただき、このたび第2版を発行することとなりました。ワークライフバランスを保ちながら義務年限中に地域で働くための様々な工夫や心構えがたくさん詰まっていますので、ぜひご一読くだされば幸いです。

2020年は新型コロナウイルス感染症の世界的流行という、未曾有の危機に見舞われ、J-PASSもこれまでのような活動（ワークライフバランスを考える会、勤務先訪問調査等）を思うように行うことができませんでした。しかし、コロナ禍の中でもJ-PASSは控えることなく、オンラインで繋がるなど方法を変えながら、少しでも“言葉の宝”を集めたいと考えています。そして、今まさに地域で頑張っておられる義務年限内卒業生の先生方やこれから地域に出て活躍するための研鑽を積んでいる在校生の皆さんに、先輩方の“言葉の宝”が届くことを願い、また届けられるように、J-PASSは今後も着実に活動を続けていきたいと思っております。

最後に、暗いトンネルの向こうに見える「コロナの終息」という灯りに向かい、地域医療を懸命に守ってくださっている卒業生の先生方のご尽力に感謝申し上げますと共に、これまでJ-PASSの講演会等に快くご協力くださいました卒業生の皆さまに厚く御礼申し上げます。

地域医療推進課 卒後指導係



<2021 年度体制>

女性医師支援オブザーバー

高本 和彦：医学部審議監・卒後指導部長・地域医療学センター公衆衛生学部門  
牧野 伸子（大阪府 10 期）：卒後指導副部長・地域医療学センター公衆衛生学部門

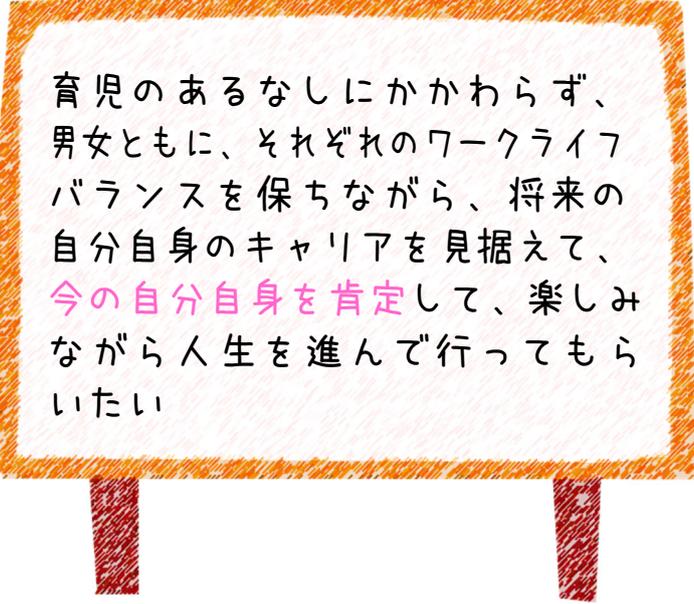
女性医師支援担当教員

石川 鎮清（福岡県 12 期）：医学教育センター  
石川由紀子（静岡県 17 期）：地域医療学センター総合診療部門  
小島 華林（青森県 24 期）：とちぎ子ども医療センター小児科学  
白石 裕子（島根県 17 期）：地域医療学センター総合診療部門  
山本さやか（宮城県 25 期）：臨床検査医学

女性医師支援ブロック担当

山本 智美（北海道 33 期）：北海道・東北（北）ブロック  
新井 由季（栃木県 25 期）：東北（南）・関東（北）ブロック  
中村香代子（埼玉県 35 期）：関東（南）ブロック  
影向 一美（新潟県 24 期）：中部（北）ブロック  
横谷 倫世（奈良県 21 期）：近畿ブロック  
渡邊ありさ（埼玉県 24 期）：中国ブロック  
十枝めぐみ（香川県 13 期）：四国ブロック  
定金 敦子（福岡県 22 期）：九州ブロック

ご意見・ご感想などございましたら、  
地域医療推進課までお願いいたします。  
地域医療推進課・卒後指導係  
mail:[chisui@jichi.ac.jp](mailto:chisui@jichi.ac.jp)



育児のあるなしにかかわらず、  
男女ともに、それぞれのワークライフ  
バランスを保ちながら、将来の  
自分自身のキャリアを見据えて、  
今の自分自身を肯定して、楽しみ  
ながら人生を進んで行ってもら  
いたい



---

令和4年3月1日発行

発行元 自治医科大学地域医療推進課  
〒329-0498 栃木県下野市薬師寺 3311-1  
TEL : 0285-58-7055  
FAX : 0285-44-6274  
E-mail : [chisui@jichi.ac.jp](mailto:chisui@jichi.ac.jp)  
URL : <http://www.jichi.ac.jp/chisuika/>